

●212 動詞部が聴き取りにくい 1)What..was...shocking... 2)What I was shocking... 3)What I was shocked...	●今回は、テストのディクテーション問題 問題の文は一番最初の文で、主語にwhatが使われていた文です。 どうも What was shockingと書くことに抵抗を感じた人がいるようで、左記の2)と3)ように、Whatの次に主語の"I"を加筆修正した解答がありました。 なぜ、what was shockingという語の並び方に抵抗を感じ、"I"を加筆したのか「違和感を言葉」にしておきましょうね。「使える英語」のために大切なステップです。そしてそのあと： GENIUSのwhat「関係代名詞」の用法を確認しましょう。来週、クラスで発見したことを話し合しましょう。
●212 動詞部が聴き取りにくい 1)They attend each other. と聴こえた	●They turned on each other. が正解でした。 さて、立派なSST修正文がありました。 最初のリスニングで正しくturn onと聴き取れていたけれど、おそらくこんな文脈でのturn onは聞いたことがないので「清書」の箇所で： They fought against each other. にしていました。 すごいね！お見事でした！
●213 and / in が聴き分けにくい 1)neighbors and villagersと聴こえた	●andの[d]はほぼ毎回発音されませんから、andとinは同音と考えて良い 1)正解はneighbors in villages でした。 おそらくandではなくinと取っていれば、脳みそは自然とヴィレッジ...と聞こえたところをvillagersではなくvillagesと解析したと思います。
214 *ミスのデータを集めましょう 今期もリピート練習やディクテーションをほぼ毎週行います。 「聴き間違い」ノートを作りましょう	We learn best through our mistakes. ミスのデータを集めましょう。 We grow wiser through the mistakes we make. 毎週手元に舞い降りるミスのデータは宝石です。活用しましょう。
215 *違った音に聴こえる If you can モヴ [ムーヴ] everyone around you unconditionally と聴こえた	●スピーカーが動詞の"love"を強調して言った結果、 [Lエル]音が[mエム]音に聴こえるという珍現象が起こりました さて、私たちが"love"を強調して言う場合[ラーヴ]と[ラ]を強調して発音するのか、あるいは[LLLΛv]と[Lエル]音のみを強調して発音するのか。 つまり、最初から[ラ]と言う音を出して発音するのか、あるいは母音の[Λ]を入れて[ラ]にせず、子音の[L]音のみを強調するか。 ●クラスでしたように、[LLL]とエル音のみ強調すると、エム音に近く聴こえます。今日からlove発音の仕方を変えて、音のイメージを変えましょう。
217 *意味から聴き取る 1)We judge ourselves ??? we don't live up to those standards. ???に何を入れたら意味が通るでしょう？	●意味を考え ??? 箇所を推測しましょう 「我々は自分を裁いてしまう、我々がそれらの基準に見合わない???」 *見合わない、見合わなければ、見合わないとき ●???箇所に、かすかに[n]音が入っているので 1)We judge ourselves when we don't live up to those standards. あるいは We judge ourselves if we don't live up to those standards.
218 *in 1)She was in here for the same crime. hereは言っていなかったが、inだけではおかしいと思ってhereをつけた	1)She was in prison for the same crime.という意味でレポーターは *She was in for the same crime.と言っていました。 in prisonの省略形の口語表現です。よってhereは不要です。 ●以下のような意味にも使えます A)He is in. 「組織や計画やチームなどに参加している」 今回の文脈では「投獄されている」 文脈によっては「在宅している、部屋にいる」 B)She's out. 文脈から「出獄している、退院している、外出中」

219 *オーストラリア英語 1)ヘッジ, she is expecting to xxx ノーマライズ, former cabinet, meet the emperor. と聞こえた	●難しかったね。正解は以下の通りでした In the <u>house</u> ahead, she is <u>expected to be inaugurated</u>, <u>form</u> a cabinet <u>and</u> meet <u>with</u> the emperor.
220 *is/has/thisとit が聴こえない 1)How significant XXX always ? 2) XXXhugely significant 3)when XXX comes to politics 4)Takaichi herself XXX actually talked 5)how difficult XXX to be a women	●今回も難しかったね。 正解はSTUDIO NEL(5月8日 DL3_1)参照ください。 音声を聞かなくても、周りの単語から推測できる XXX もありますね。そんな力もディクテーションには必要です。 講師の経験上、分かっている「使えていない表現」のところで間違えることが多いので「ディクテーションは英会話の先生」だと思って表現力を伸ばしました。
221 *A4_3の聴き取りにくい単語 1)when she, 2)warm tone, 3)toward, 4)to how, 5)leaned 6)rapport, 7)support, 8)kept it 9)moves that 10)was able, 11)her main	●ディクテーションの宿題のヒントです まずは自力でSSTと清書をしてから、参照してくださいね。
222 *A4_3のリズム 1)support on Iran 2)but kept it 3)deliberately, international 4)our objectives	●リズム「強弱・長短」に注意し、トカゲの尻尾切りを意識する 1)support ton トン / o nIran ニラン → サポートニラン 2)bu(t) kep tit バッ ケp ティト 3)デュLi bera tly [reit]ではなく[r*t]曖昧母音です internationalを棒読み方式で、同じ長さで言わない 4) ou robjectives ロブジェクティヴ
223 *ピッチ（高低）のずれ 1)Second, she signaled support... [sigNAled]	●単語の本来のストレスの箇所がずれることがある 1)signalは第1音節にストレスが来るので[Sɪgnl]とSl]の方が強く高く聞こえるはずが、彼女の英語では第2音節のピッチの方が高く聞こえた。 こう言う現象はよく起こります。 今回の場合は、SecondのSeが高く、次の高低の波の「高」が来たのはsignaledの第2音節の方でした。我々non-nativesが彼女と同じようにピッチをずらしても、全体の流れとしては違和感はありません。
224 *トカゲの尻尾切り 1)Let me talk about it.	●but kept it の応用で練習してみよう Le (t)me tal kabou tid. *talkもカタカナの「トーク」のイメージにせず、[t]と[tɔ:]は別々な音素だと意識して練習しよう。 *シラブル(音節)が同じ長さにならぬように、長短・強弱を意識して発音しよう。